

### 3. 研修会実施状況とアンケート結果



#### 4. 研修会実施状況

(1) 研修会参加者内訳 ※参考に第1回を含むデータを掲載

第1～4回  
県別受講者数

都道府県	参加回	受講者数
北海道	2	6
青森	3	7
岩手	2	6
宮城	4	6
秋田	4	6
山形	2	5
福島	3	6
茨城	1	5
栃木	3	5
群馬	4	6
埼玉	2	5
	3	1
千葉	1	6
東京	1	6
神奈川	2	4
新潟	1	6
富山	3	6
石川	2	6
福井	4	6
山梨	3	6
長野	2	6
岐阜	1	5
静岡	1	6
愛知	1	7
三重	1	5
滋賀	4	5
京都	3	7
大阪	1	6
	4	1
兵庫	3	6
奈良	4	6
和歌山	1	6
鳥取	4	5
島根	4	4
岡山	3	5
広島	2	6
山口	4	6
徳島	3	8
香川	4	6
愛媛	2	5
高知	1	5
福岡	2	6
佐賀	3	4
長崎	4	7
熊本	4	6
大分	3	6
宮崎	3	6
鹿児島	2	6
沖縄	4	6
合計		272

本事業のみ 第2～4回の参加者総数
210

【第1～4回 職種別】

医師	47
介護支援専門員	36
看護師	45
行政	4
言語聴覚士	46
作業療法士	47
理学療法士	47
合計	272

【第2～4回 職種別】

医師	36
介護支援専門員	28
看護師	34
行政	4
言語聴覚士	36
作業療法士	36
理学療法士	36
合計	210

## (2) 参加者アンケート結果

### 研修会 受講者基本属性 (第1回～第4回)

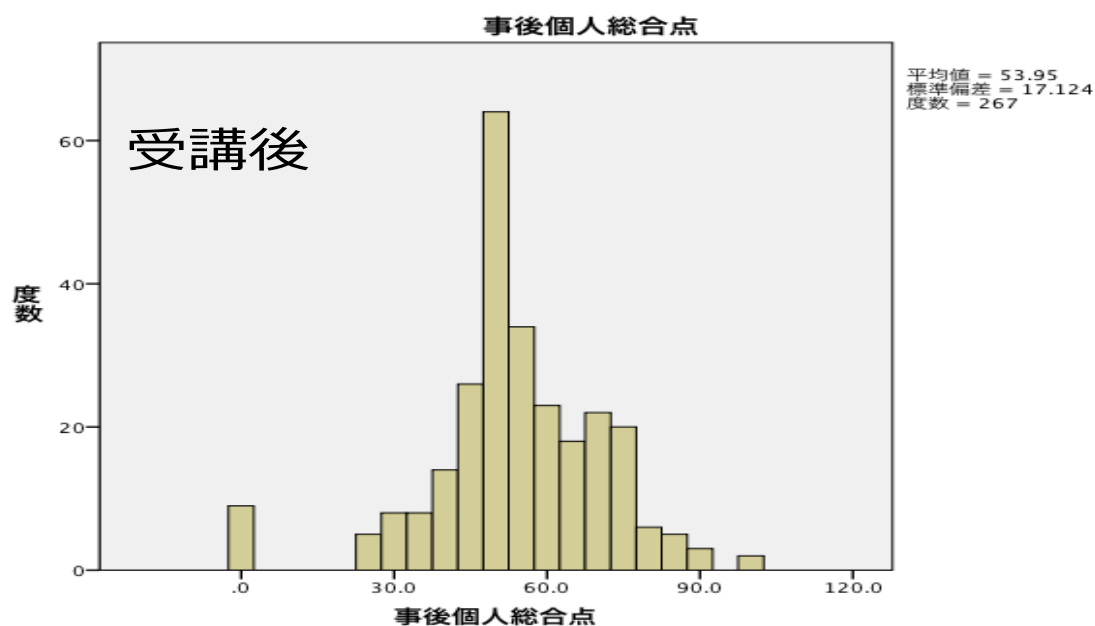
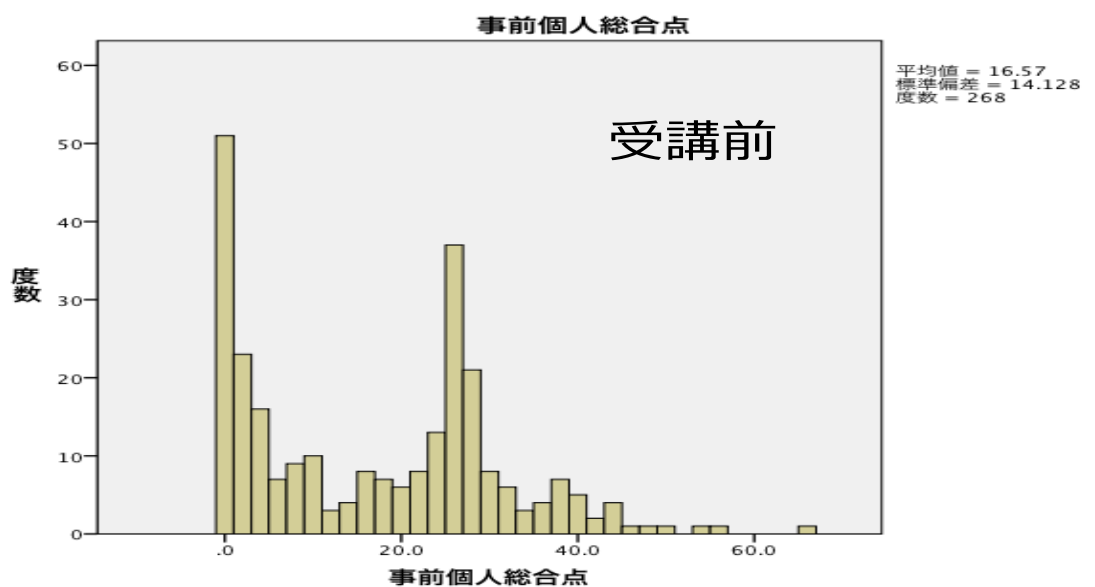
- 地域：48都道府県
- 受講者数：272名。(グループとしての参加者) 男性185名(68%)、女性84名(31%)、不明3名(1%)
- 年齢：43.64±8.64歳(24～71歳、中央値44歳)
- 職務経験年数：18.81±8.83年(2～45年、中央値18.5年)
- 災害研修受講経験：あり87名(32%)、なし175名(64%)、不明10名(4%)
- 災害支援参加経験：あり86名(32%)、なし170名(63%)、不明16名(6%)

職種	人数	%	男性	%	女性	%
医師	48	17.6%	43	90%	5	10%
介護支援専門員	32	11.8%	28	88%	4	12%
看護師	45	16.5%	8	18%	36	80%
言語聴覚士	39	14.3%	22	56%	17	44%
作業療法士	47	17.3%	34	72%	13	28%
理学療法士	46	16.9%	41	89%	5	11%
その他	13	4.8%	9	69%	4	31%
合計	272	100.0%	42	68%	20	32%

## 理解度スコアの変化

(25項目、0~4点、100点満点)

- 事前総合点：中央値18点（0~66点）、平均16.57点
- 事後総合点：中央値52.0点（0~100点）、平均53.95点  
( $P=0.000$ 、Wilcoxon の符号付順位検定)
- 25項目すべてでスコアが有意に増加。



## 事後アンケート (N=272)

項目	大変あった	あった	普通	ない	全くない
災害リハに関する意識の変化	43	36	3	0	0
他職種との連携の重要性の実感	62	23	1	0	0
平時からの災害研修の必要性の実感	54	30	2	0	0

項目	大変役立つ	役立つ	ふつう	役立たない	全く役立たない
今回の研修が地域で役立ちそうか	29	49	8	0	0
マニュアルは役立ちそうか	31	43	10	1	0

## 理解度チェックリスト (見本)

No.	項目	4.非常によく理解している	3.よく理解している	2.ある程度理解している	1.理解が不足している	0.ほとんど～全く理解せず	マニュアル参照頁
1	災害対応支援を決定するために踏むべきプロセス						3
2	DMATの役割						5
3	10団体としての支援活動の基本姿勢						7
4	活動スタッフの心得						9
5	災害のフェーズ分類						13
6	害フェーズごとの医療支援のポイント						15
7	災害フェーズごとのリハビリテーション支援のポイント						15
8	各災害フェーズにおいて必要な情報						21
9	災害フェーズごとの支援ニーズの把握のポイント						69
10	平時における10団体の体制						31
11	災害発生時における10団体の体制						33
12	災害リハビリテーション支援のための研修の進め方						43
13	事前訓練・シミュレーション訓練のポイント						53
14	災害時の執行機能						55
15	災害リハ支援におけるロジスティクス確保のポイント						75
16	災害リハビリテーション対応の基本原則						87
17	災害発生時の初期対応のポイント						113
18	災害復旧時の対応のポイント						139
19	災害復興時の対応のポイント						149
20	心理面への対応のポイント						153
21	情報管理・収集・発信・支援のポイント						171
22	支援活動における評価のポイント						179
23	関係団体・行政等との連携のポイント						187
24	災害支援に関わる倫理的問題						194
25	災害関連法規の概要						201

### (3) 研修会終了後の各都道府県における報告会の実施状況

(本事業補助金申請分のみ掲載)

#### ■和歌山県 和歌山災害リハビリテーションコーディネーター研修報告会

日時 : 平成 26 年 3 月 23 日 (日) 9 : 00 ~ 16 : 00  
場所 : 白浜はまゆう病院 会議室 (和歌山県西牟婁郡白浜町)  
参加者 : 50 名程度  
運営協力 : 和歌山県災害リハビリテーション推進委員会  
田辺西牟婁地域リハビリテーション広域支援センター

災害リハビリテーションコーディネーター研修会参加者による報告会を実施した。

災害リハビリテーションコーディネーター研修会の報告とその後の各団体での取り組みについて、医師、理学療法士、作業療法士、言語聴覚士、介護支援専門員より報告があった。また災害リハビリテーションコーディネーター研修会講師の淡野氏からは長崎、高知、徳島での取組み例が紹介され、その後和歌山で具体的にどのように展開していくかということで意見交換と議論が行われた。



あわせて、各職能団体からの代表者を含めた研修会を実施した。

- 講演 1 東海・東南海・南海地震について～巨大災害の想定、県の防災・減災対策の取組について  
講師：西牟婁振興局 地域振興部 総務県民課 防災総務グループ 藤谷 宣之氏
- 講演 2 東日本大震災における D-MAT 活動報告と和歌山県の現状について  
講師：南和歌山医療センター 川崎 貞男 氏
- 講演 3 大規模災害におけるリハ支援の必要性和災害リハビリテーションコーディネーターの役割について  
講師：長崎リハビリテーション病院 淡野 義長 氏



## 研修会風景

講演1：まずは災害に対する理解を深めてほしいと、釜石の奇跡と言われている事象の解説と和歌山県の災害対策への取組みやその用語の解説など、災害に対する基本的事項の理解が重要との話があった。



講演2：東日本大震災におけるDMAT活動の実際と紀伊半島大水害における活動の実際について報告があった。さらに和歌山県で行われた白浜空港をベースにした広域医療搬送訓練時の様子が報告された。



講演3：東日本大震災リハ支援関連10団体の活動経緯と現状の報告があった。またコーディネーター研修会の科目でもあった災害フェーズとリハの対応に関する解説もあった。指示命令系統や発災時のロジックなどについて質疑が交わされた。



- 北海道 3/24 災害リハコーディネーター養成研修会・報告会を実施。あわせて協議会を立ち上げ、研修を実施した。
- 愛媛県 3/24 災害リハコーディネーター養成研修会・報告会を実施。あわせて研修を実施した。

災害リハコーディネーター養成研修会后、このほかに全国各地で報告会実施、協議会の立ち上げ、研修会の実施など、各地域における組織化と取組みの波及がみられる。

